

V 世紀の大事業 新宿都庁舎建設



新宿都庁舎 『新都庁舎建設誌』(請求番号:財務F9 1)

新都庁舎建設は、東京都新都庁舎設計競技審査会が設けた基準により国内9者の設計事務所を選定し、指名設計競技が行われました。

その結果、昭和61年(1986)4月7日、丹下健三・都市・建築設計研究所の設計案を採用、昭和63年(1988)4月2日に起工式が執り行われ、建設が始まります。

そして平成2年(1990)12月に引渡式、平成3年(1991)3月9日に落成式が挙行されると、職員約1万3千人を対象とする大規模な移転が実施され、3月31日に終了します。

こうして丸の内から新宿へ移転した新都庁舎は、4月1日に開庁しました。

このコーナーでは、東京都にとって世紀の大事業といっても過言ではない、新都庁舎建設から開庁までの歩みをご紹介します。